# 福井隆子句集

# つぎつぎと

Fukui Takako

師能村登四郎は第二句集『新調』について「自分を客観視する余裕もあり句の幅も出て来ていい作家になる楽しさを感じさせる」と述べた。私はこの第三句集を手にして「いい作家になった」と言いたい。それこそ次々と身辺に起こる事を溺れるでなく、逃げるでなく、直視した句集『つぎつぎと』を自信をもって推奨する。

今瀬剛一

つぎつぎと嫁がせる馬鹿花吹雪

取り返しつかぬ黒揚羽に生まれ

腹這ひて塊りとなる春の牛

雅美

百合の束いだき百合の香ごと嫁ぐ

嫁がせし夜の風鈴の良く鳴れり

祭髪毗すこし吊り上がり

居ずまひを正し単衣の皺ふやす

自己ベストタイムの敗者夏の雲

原色の水着敗者をかなします

また三者凡退メロン冷えてをり

すでに五分白髪の夫初明かり

太箸のまづころころと豆掬ふ

みどりごに指握られてゐる雪夜

ゆつくりと夜が明け一夜干鰈

水鳥の向き替へ家に帰らねば

太き尾の恋猫もどり来たりけり

春の雪煮くづれしもの旨かりし

嬰がじつと見て花冷えの聴診器

機嫌良き嬰へ上澄み蜆汁

婿が来て嬰を攫ひゆく桜の夜

人日の人参のやや甘過ぎし

あたたかや遺跡に百のまろき穴

あれこれと煮てゐて鴨に帰られし

夕桜知多半島の見ゆる駅

土の宮風の宮見て花七分

手提げ袋ふくらみお伊勢様帰り

しんしんと雪抽斗の開かぬなり

職退きし夫の外套重たかり

アルルほか　四句

羊は草を食みをり鳥の帰るなり

蝶生れノルマンディの野の起伏

マネ・モネ・セザンヌあまた見て鳥帰るなり

ポケットに福豆ゴッホゆかりの地

雛に灯が入り鳴りもののやうな雨

雛納めしたる正座でありしかな

庖丁に吸ひつき春の胡瓜なり

風車にもたためらひの一二秒

弟　急逝（享年五十九歳）

弟や紫陽花みどり色に咲き

軒風鈴吊りたる夜の訃報なり

笑ひゐる遺影童顔雲の峰

おそるおそるふくらんでゆくゴム風船

日の差してゐて睡蓮の花に雨

鎌倉五山第二位青葉したたれり

青葉若葉北鎌倉の駅小さし

浄土明かりとも紫陽花のふた色め

弟が隠れ自紫陽花ゆるる

鎌倉や紫陽花に雲触れてゆく

句集　つぎつぎと

発　行　平成十六年五月十五日
著　者　福井隆子
発行者　田口恵司
発行所　株式会社　角川書店
〒102-8177　東京都千代田区富士見二―十三―三
電　話　（〇三）三八一七―八五三六（編集）
編集制作　株式会社　角川学芸出版
印刷所　三協美術印刷株式会社
製本所　株式会社　黒田製本所

©Takako Fukui 2004　Printed in Japan
ISBN4-04-651755-7 C0092

PDF 制作　俳誌の salon